



経営情報誌「Anchor (アンカー)」に

掲載されました

令和4年7月1日(金)

経営情報誌「月刊 Anchor (アンカー) 7月号」に弊社が掲載されました。

取材は、タレントのつまみ枝豆さんが来社し、弊社社長との対談形式で行われました。弊社の経営理念や社長の思いなどが紹介されています。

— アンカー —  
**Anchor**  
Monthly Graphic Journal

Vol.399  
2022.  
7

●特別企画 地域再生—企業は人なり— ●起業家たち—その足跡を辿る ●~Anchor's Person~

表紙写真：NTTの澤田純社長（左端）とスカパーJSATの米倉英一社長（右端）ら

**巻頭特集 D&Iが経営戦略になる 「違い」を認めあう時代**

Current Topics 清酒メーカーの挑戦から見る地方創生のあるべき姿

Column 先達の道標／句を楽しむ／The Call of Muse.／OSAKA DRAMA LABO



# 働く人の幸せ、顧客満足を追求し その先で新たな価値を創造する

▼新潟県糸魚川市を拠点に土木・建設工事をはじめ下水道維持・修繕工事、住宅基礎地盤整備、塗装関連工事など多様なニーズに応えている『伊藤建設』。「創意 誠実 信頼」をモットーに、一丸となって日々顧客満足を追求している。そんな同社を牽引する三代目・伊藤社長のもとを、本日はタレントのつまみ枝豆氏が訪問。その歩みについてのお話を交えながら、社長の事業にける熱き思いに迫った。

## I N T E R V I E W

—伊藤社長は剣道七段の腕前だとお聞きしました。いつから剣道を？

小学4年生の時、兄の影響で始めました。それから大学まで続けていましたが、一方で幼いころから当社の創業者である父に連れられて仕事現場に行くこともありましたし、その背中をずっと見てきて将来は経営者になりたいという想いを持っていました。それで卒業後は家業に入り、経験を重ねました。やがて兄が二代目となり、私は専務として支えてきました。けれども兄が体調を崩したことをきっかけに私が三代目として代表職を引き継ぐことになりました。

—剣道のご経験はきっと経営でも活か

されていることでしょうか。

ええ。日々の練習で鍛えた精神力は大いに役に立っていると思いますし、先を読んで行動することなど、剣道で学んだことは経営にも活かされていると思いますね。実は、三代目に就任する前には市議会議員としても活動していました。家業と剣道道場と三足のわらじを履いていたんです。

—社長はバイタリティの高い方いらっしゃる。身体一つでは足りないでしょう(笑)。

議会がある時期は夜中まで仕事をしていることが多かったですね。そんな日々を経て、5年前に代替わりをするタイミングとなり、就任の挨拶で皆に宣言したことがあります。それは「社員が幸せになる会社を目指す」ということ。まずは社員の幸せを追求することで、その先のお客様の幸せにつながるという想いで舵取りをスタートしました。

—素晴らしい姿勢ですね。社員さんが幸せでなければ、お客様を幸せにすることはできないはずですよ。

また私の代になって、基本的に仕事の進行などは各部門の裁量に任せることにしました。今どんなことに取り組んでいるのかということ、課題があればどのよ

今年66歳とは思えないバイタリティ溢れる伊藤社長。対談させていただき、私も元気をもらいましたよ。現在、『伊藤建設』さんでは、社長のご長女が後継者として修業されているそう。社長も「お前ならできると太鼓判を押されているのだとか。ご長女がどんな手腕を見せてくれるか楽しみです。期待していますよ。

うなアプローチをするかということをおおまかに把握した上で、私のこれまでの経験に基づいてアドバイスをします。そうして創意工夫しながら会社全体でお客様のニーズに応えていこうというスタンスです。

—なるほど。任せられたスタッフの方もやり甲斐が大きいですよね。現在、スタッフさんは何名いらっしゃるのでしょうか。

40名です。お陰様で安定した売上を維持することができていますが、それが当たり前だと思っはいけないと常にス



工事現場状況



現場踏査での指導状況



地元小学生の職場探検の様子



つまみ枝豆  
(タレント)



COMPANY DATA



株式会社 伊藤建設

新潟県糸魚川市大字須沢 2637 番地

URL : <http://ito-omi.com>

【直心館 伊藤道場】新潟県糸魚川市須沢 3294 番地

スタッフには話しています。今、目の前にある仕事をより良いかたちで将来につなげていくために何が出来るかを考えてほしいですし、新規のお客様を開拓するとか、建設業という枠にとられずに新たな事業分野に挑戦することも一つの方法だと思うのです。実はかつて当社はリスクヘッジのためにホテル運営事業を手掛けていたことがあります。リーマン・ショックの影響で撤退を余儀なくされましたが、今はコロナ禍ということもあり今後何が起きても不思議ではありません。建設業に関連するものを中心に、今後も積極的に新規事業へ挑戦して可能性を広げていければと考えています。

——これからが楽しみです。お話も尽きませんが、今後の展望を伺います。

少しずつでも売上を伸ばし、取引先を広げてより安定した事業基盤にしていくことが目標ですね。また現在、私は66歳ですから、次の世代へのバトンタッチ

を見据えて早め早めに行動していきたいと考えています。

——次代を担う若い方に向けて、メッセージをぜひお願いします。

私がどんな時も心に刻んでいるのは、「人生は一度きりしかない」という言葉。だからこそ、人生を大切にしないといけない。それは、全ての人にとって同じことが言えますよね。つまり、自分の人生を大切にすること、他人の人生を大切にすることでもあるのです。だからこそ、これからも私は社員とその家族の幸せを追求していきたいですし、社員たちもまたお客様も含めて他の人の幸せを追求できる人間であってほしいと願っています。それが根底にあれば、これから不透明な時代の中でどんな困難に直面しても、きっと乗り越えていけるはずです。そのことを皆には忘れずにいてほしいですね。

(2022年4月取材)

代表取締役社長／館長

伊藤 文博



「直心館伊藤道場」の2020年の初稽古の集合写真

Pick up the another story

▼「剣道を通して学んだことは、経営者になってから大いに活きた」と対談で語ってくれた伊藤社長。「剣道の世界ではよくあることなのですが、指導の際に言い方を変えるだけで、相手により伝わりやすいということがあります。スタッフとの接し方も、同じことが言えるのです。『伊藤建設』では毎週朝礼を行っており、社長は「伝わる」スピーチを心掛けているそう。コミュニケーションは、自分の伝えたいことが相手に「伝わる」ことで初めて結果が出ると言え

るのではないだろうか。角度を変えてみる、言い方を変えてみる。そうして相手に伝わりやすい質の高いコミュニケーションを実践することこそが、経営者の役割の一つだということ、社長の姿勢から学ぶことができる。



「直心館伊藤道場」の稽古の様子